

事例 11

情報発信

【港北区事例】「思いあいのまち樽町」（平成 28 年 7 月開設）

団体紹介

- ・団体名：「ひっとプラン港北樽町地区推進委員会」
（樽町地区連合町内会、樽町地区社会福祉協議会、樽町地域ケアプラザ、樽町中学校等で構成）
- ・活動者の受講年度：平成 30 年度（第 3 期生）
- ・メンバー数：約 30 名
- ・活動実績：令和元年度は、HP 更新 50 回以上、広報誌 2 回発行
- ・活用制度：（地域のチカラ応援事業補助金）



「思いあいのまち樽町」ホームページ

活動内容

工場跡地のマンション化などで人口流入が続いている樽町地区では、インターネットを積極的に活用して、イベント広報誌「樽町イベント掲示板」とホームページによる情報発信に加え、SNS（Twitter、LINE 公式アカウント）による取組を進め、情報共有を図っています。

樽町地区の代表の小泉さん（令和 2 年度に樽町連合町内会長に就任）は、平成 30 年度の港北つなぎ塾で自治会町内会におけるホームページによる情報発信についての事例報告を行い、令和元年度港北つなぎ塾では、「地域活動へ参加を促すために、どのような情報をどのように発信するか」を話し合うグループにアドバイザーとして参加。また、令和 2 年度港北つなぎ塾「つなぎ塾トーク」では、地区の社会福祉協議会、子育て・高齢者支援に携わる仲間の皆さんとともに、コロナ禍で変化した地域活動の現状について、発信してくれました。

日常的な連絡手段としては、「LINE」をうまく活用したり、また、連合町内会など地域の打合せでは、会議資料をプロジェクターで投影し、ペーパーレスにも取り組んでいます。一方、居場所の休止により子育て中の母親が孤立するなど、顔と顔を合わせ直接関わり合うコミュニケーションの重要性も感じており、オンライン活用とリアルのつながりをどう組み合わせていくか、模索しています。